

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援
2025 年度事後評価結果

グラント番号	JPMJST2555
研究開発課題名	ALS 患者向けの入力インタフェースのウェアラブル化と入力モータル個人最適化のニーズ調査
研究代表者	立命館大学 情報理工学部 双見京介
研究開発成果の概要	ALS 患者の意思伝達手段において、様々な場面・活動で利用が困難、入力モダルの個人最適化が困難、という既存の入力装置や人的支援が対応できない課題へのニーズを確認した。これに対し、目や口のウェアラブルセンシング技術を活用した入力インタフェースの要素技術を開発し、その実現可能性を確認した。

総合評価

インターフェースとしての基礎的な機能は十分に吟味されており、健常者、ALS 患者での検証、専門職・支援者へのヒアリングは評価できる。一方で、実ユーザ環境で生じる外乱にどの程度耐性があるかという点は課題として残る。今後は、障害当事者の評価を積み重ね、ニーズの確認・分析、ユースケース検討、製品仕様の見直し、技術改良などを進めることを期待する。

以上